

ハンドボール

特集

第61回全日本高校選手権大会

第23回全国小学生大会

第3回女子ユース世界選手権

10 5
OCT.2010・No.513



[表紙写真：インターハイ男子優勝の北陸高校・柴山選手；写真提供・スポーツイベント社]

財団法人 日本ハンドボール協会

<http://www.handball.jp/>



molten[®]
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

日本リーグ唯一の公式試合球
全日本実業団連盟主催大会
唯一の公式試合球

H312 ヌエバ **国際公認球** **検定球**
縫い・人工皮革、3号球、ラテックスチューブ

H212 ヌエバ **国際公認球** **検定球**
縫い・人工皮革、2号球、ラテックスチューブ



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7

人生で最初に出会う 競技スポーツ



—ハンドボールも選択肢の1つに—

(財)日本ハンドボール協会参事・小学生委員会委員長 **山本 繁**

日本の子供達が『人生で最初に出会う競技スポーツ』は、何でしょうか？

やっぱり野球？ 今はサッカー？ 幼児からのスイミング？ 私が小学生の頃は、これに相撲が加わるでしょうか。いや、でも学校ならやっぱりドッジボール。体育では、3、4年生からサッカー、バスケットボール、ハンドベースボール、ソフトバレーボール…。テレビをつければ、野球、サッカー、バレーボール、ラグビー、水泳、相撲…。子供達が、「やりたい！」と思うスポーツは、これらでしょうか？

いやいや、ぜひその中にハンドボールも加えましょう。我々ハンドボールに関わる小学校教員やスポーツ少年団指導者がめざすべきは、『人生で最初に出会う競技スポーツ』の選択肢の中に、ハンドボールを加えること。そして、「**その中でも、ハンドボールが一番おもしろいよね！**」と言わせることです。実際、小学校低・中学年にハンドボール（的なボールゲーム）をさせれば、すぐに納得！ ほとんどの子供は喜びますし、すぐにゲームに馴染んで活躍しします。本当に子供にぴったりのボールゲームなのです。また、運動発達の面からも、ハンドボールは「走・跳・投」の基本動作が備わったスポーツであり、自由度が大きく多様な動きが養われるので、ハンドボールで培った能力は、他のスポーツにも転化しやすいのです。ハンドボールは、「**子供達に自慢すべきスポーツ**」、「**自信を持ってお奨めするスポーツ**」なのです。当然、小学生のうちにはいろいろなスポーツを経験する方が望ましいのですが、このようなハンドボールの魅力为全国の小学生に広め、他のスポーツ同様選択肢として肩を並べたいものです。これが、小学生委員会の普及の仕事でしょう。

一方、「全国小学生ハンドボール大会」は、今年で23回目となりました。各都道府県大会を勝ち抜いた代表チームが男女合わせて59チーム集まり、予選リーグ、決勝トーナメントで熱戦を繰り広げました。これまでにこの大会を経験し、その後、中学・高校で活躍する選手が数多くいます。近年の全国中学校大会やインターハイ等で勝ち上がっているチームには、必ずと言っていいほど、小学生からの経験者がいます。小学生で身に付けたステップワークやボールセンス、ゲームセンス、体力・運動能力が、大いに役立っているものと信じております。少年ハンドボール指導者の日々の指導に敬意を表します。

今年度、小学生委員会では、「**少年チームの運営活性化**」を基本方針として活動しております。全国には、日本協会登録チームが340チーム余り、1,100名ほどの指導者が小学生にハンドボールを教えています。また、半数以上のチームが、1年生から入会させ丁寧な面倒を見ています。この少子化の日本にあって、チーム数や部員数の現状維持が難しい中、ハンドボールでは現状維持かやや微増をキープしており、指導者の皆さんのご苦勞の跡が感じられます。このように、日本のハンドボールの底辺（現場）は、全国各地でハンドボールを愛するボランティアの皆さんの努力の下で、『人生で最初に出会う競技スポーツ』にハンドボールを選んで、日々ハンドボールを楽しんでいます。我々小学生委員会は、このようなチームや指導者の方々の頑張りに応えられるように、チーム運営の手助けになるよう情報交換をしながら環境整備等に努めております。

また、7年前からは、指導委員会、NTSとも連携を図りU-12講習会を開催し、指導体系の一環システムにも関わってまいりました。ガイドブックも2種類作成し、全国の少年チームに配付してきました。その成果は、子供達のプレーの向上に表れてきています。

さらに、昨年からは、「日韓小学生親善交流事業」もスタートしました。昨年は韓国チームが来日し、全国大会を見学し、その参加チームや富山県の小中学生と練習試合や合同練習（親善交流）をしました。今年は、8月下旬に京都府（男子）と富山県（女子）が訪韓し、河内市で親善交流を行いました。（詳細は別な機会です）

このように、小学生委員会では、普及と指導の両面において活性化と活動内容の充実を図っております。今後も、各ブロック9名と協会担当者4名の小学生委員で、全国の現状を正確に把握し、成果と課題を明らかにし、普及と指導に当たってまいります。ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

第61回 全日本高等学校 選手権大会

平成22年度全国高等学校総合体育大会



写真提供…スポーツイベント社

最終順位

- [男子] 優勝：北陸高校（福井県）
準優勝：瓊浦高校（長崎県）
3位：県立岩国工業高校（山口県）
県立不来方高校（岩手県）
- [女子] 優勝：府立洛北高校（京都府）
準優勝：四天王寺高校（大阪府）
3位：文化女子大学附属杉並高校（東京都）
高岡向陵高校（富山県）

[男子] 北陸高校が3年ぶり3回目の優勝
[女子] 洛北高校が2年ぶり8回目の優勝

全国高校総合体育大会「美ら島沖縄総体2010」ハンドボール競技の総括

沖縄県高体連ハンドボール専門部ハンドボール競技実行委員長 与那嶺直樹

「青天届く君の風 みなぎる闘志が夏に輝く」のスローガンのもと、8月1日から6日間、全国高校総合体育大会・高松宮記念杯第61回全日本高等学校ハンドボール選手権大会が、単一県開催最期の地、沖縄で開催されました。

沖縄でも全国的な荒天の影響か、大会期間前後で雨の多い天候となりましたが、南国特有の青空と独特の空気感を味わうことができました。

日本協会より、本大会の総括ということで依頼があり、大会運営を通して私を感じたことを綴っていきたくと思います。

まず、今大会会場となった浦添市民体育館、八重瀬町東風平体育館、具志頭社会体育館で、松やにを使用した大会運営ができたことに、各市町関係者に御礼申し上げます。これは、ハンドボール王国都市宣言をした浦添市を中心に、高校のトッププレーヤーに、ボールを握り自由に扱うという、ハンドボールの醍醐味を十分に発揮させたいという願いから実現できました。選手からも、概ね好評でした。

また、各校の応援団として多くの保護者が沖縄を訪れていて、各会場とも試合と応援の熱気ですごい盛り上がりを見せていました。特に沖縄県代表の試合では、会場全体が県勢の応援になったかのようでした。応援団も試合が終われば、それぞれ思い思いに沖縄観光もでき、有意義に過ごすことができました。

試合のほうに目を移してみると、春の選抜で上位に進出したチームがこの大会でも上位に位置してきました。男子では、北陸（福井）岩国工業（山口）不来方（岩手）、女子は洛北（京

都）四天王寺（大阪）文大杉並（東京）が春に続き4強入りし、瓊浦（長崎）高岡向陵（富山）が春の悔しさをばねに躍進しました。特に、岩国工業対法政二（神奈川）、香川中央（香川）対小林秀峰（宮崎）、瓊浦対香川中央、不来方対興南（沖縄）等、1点を争う見ごたえある試合も多く、スリリングな展開に会場が湧きました。

女子は、点差がつく試合が多くなりましたが、高岡向陵が1、2回戦の接戦を制した勢いそのままに3位を獲得しました。特に、2回戦で春の準優勝校、華陵（山口）に逆転勝利したことで自信を持って戦いを進めていったように思います。

大会運営各所で、沖縄らしさを出してきた大会でしたが、表彰式では特に沖縄らしさを出せたと思います。それは、沖縄県ハンドボール協会会長賞の授与で、沖縄特産のマンゴー、ドラゴンフルーツ、パイナップルをチームに贈呈したことです。協会会長賞は、どのようなものを贈呈してもいいということだったので、協会内で話し合いがなされ、トロフィー等よりも頑張った選手に還元できるものがいいだろうということで、特産品の贈呈となりました。選手、監督にとって思い出の品になったと思います。

最後に、これまで大会までの準備や助言をいただいた全国高体連ハンドボール専門部、浦添市実行委員会、八重瀬町実行委員会、沖縄県高体連のみなさんに感謝申し上げます。

また、大会運営にあたり各準備の取り組んでいただきました県内各小、中学校、高等学校、特別支援学校、大学の先生方、補助員として滞りなく大会運営を進めてくれた県内高校生、大学生の皆さんに、誌面を借りましてお礼申し上げます。

男子優勝チーム：北陸高等学校（福井県）

まずは平成22年度全国高校総体におきまして、3年ぶり3回目の優勝をできましたことに対し、日頃よりご支援ご協力いただいております学校関係者の皆様、県体育協会、県高体連の皆様、ご父兄、OBの皆様に深くお礼申し上げます。有難うございました。

本大会は、3月の全国選抜大会初戦敗退という悔しい思いもあり、選手たちも気持ち新たに挑戦者という強い気持ちで挑んだ大会でありました。しかし初戦から強豪チームとの戦いとなり、また、ノーマークシュートなどミスが続き、なかなか本来の試合運びをすることができず厳しい戦いが続きました。しかし、準決勝からは見違えるように、アグレッシブ

北陸高校男子ハンドボール部総監督 志々場 修二

なディフェンスからの速攻や、早いパス回しからのセットオフenseなど、本来の持ち味を發揮することができました。また、1年生も入り不安材料もありましたが、3年生を含めそれぞれが日頃の練習の成果を十二分に發揮し、試合ごとに自信をつけていくことができたと思います。

決勝戦は、両チームの持ち味を生かしたスピードある展開となりましたが、最後まで粘り強く守り抜くことができ、優勝することができました。

最後になりましたが、今大会で運営にあられた大会関係者の皆様、会場で応援して下さった皆様に心よりお礼申し上げます。本当に有難うございました。



女子優勝チーム：洛北高等学校（京都府）

この度、美ら島沖繩総体で優勝させていただくことができ、本当に嬉しく思います。

春の選抜大会で四天王寺に敗れ、また恩師である楠本繁生先生の転勤。インターハイまでの約4ヶ月間、本当に苦しい道のりでした。なかなか現実を受け止めることができない私達。私達が苦しんでいた分、楠本みゆき先生はもっと苦しかったでしょう。

ですがそんな中、私達を応援して下さいました多くの方々。家族、学校の先生、クラスの友達、地域の皆さん、代々の先輩方の支えが私達洛北高校の大きな力となりました。

「勝ちたい」この強い思いを一つに京都府予選、近畿大会と

洛北高校キャプテン 角南 果帆

大会を重ねるごとにチームが一つになり、個人、チームの反省を元に成長していったチーム。そしてインターハイ。もう、「優勝」の2文字しか考えられませんでした。一試合一試合、反省点は多いですがその分、強くなっているを感じました。

決勝戦では、試合終了のホイッスルが鳴った時、嬉しいという気持ちより今まで支えてきて下さった家族や多くの方々、そして共に戦ってきた仲間、楠本みゆき先生、繁生先生への感謝の気持ちでいっぱいでした。たくさん苦しんで泣いて悩んだ日々は、この瞬間のためにあったんだと思いました。



選抜大会での負け、監督が変わるといった大きな経験が私達を成長させてくれました。指導方法が全く違い、初めは戸惑うことも多々ありました。ですが、こういったことも全て私達の力となりました。今後も洛北スタイルで洛北らしいハンドボールをして、このインターハイでの優勝という経験を活かし、10月の国体では更にレベルアップした洛北を見せ

たいです。

一日一日を大切に、全力で国体優勝という目標に向かって頑張っていきたいです。これまでご支援いただきました多くの方々に感謝いたします。次の国体では京都府選手団として出場させていただきますが、今後とも、ご支援、ご声援のほどよろしくお願いします。本当にありがとうございます。

3点共 写真提供・スポーツイベント社



積水ハウスの「グリーンファースト」は、人にやさしい、人をしあわせにする「環境配慮」の住まい。太陽光発電、燃料電池によりCO2排出量を大幅に削減するだけでなく、暮らしの新しい快適と豊かさを実現します。その住み心地が「ファースト」です。環境にやさしい暮らし、はじめませんか。

快適のつづくエコ。積水ハウスは

詳しい事例は、こちらから

www.sekisuhouse.com/gf

一戸建て・共同住宅・クラブハウスのご建築は、当社にお任せ下さい。

50th
200万戸への感謝を結ぶ50年
キャンペーン
実施中!

積水ハウス株式会社

川崎支店 SUMO武蔵小杉展示場 担当:早川 祐侍



〒211-0067 川崎市中原区今井上町55-10 (SUUMO住宅展示場 武蔵小杉) TEL. 044-739-1621

E-mailアドレス: hayakawa019@sekisuihouse.co.jp 公式ホームページ <http://www.sekisuihouse.co.jp>

国土交通大臣免許(13)第540号 国土交通大臣許可(特-17)第5295号



戦評

【男子】

▼準決勝

北陸 29 (13 - 10, 16 - 13) 23 不来方

高さや速さの不来方と速い展開を得意とする北陸の対戦。不来方・大和田のカットインで先制。4分過ぎには岡本のサイド、森田のミドルシュートなど3連続得点で4対1とする。北陸も杉本のサイドからの2連続得点、大橋、村田のポストシュートなどで食い下がり、13分には同点、14分には逆転に成功する。その後、両チームGKによる好セーブもあり、一進一退の攻防が続く。前半終了間際、北陸・平子のミドル、大橋のポストシュートで3連続得点し、13対10の北陸リードで折り返す。

後半に入ると、北陸は堅い守りからの速攻、サイドからの展開するオフェンスが噛み合い、7分過ぎには18対11とし、さらに平子、杉山らのシュートで17分過ぎには22対14とリードを広げる。不来方も大和田のミドル、ポストシュート、森田のカットインで4連続得点をあげるが、反撃もここまで。前半に逆転し、その勢いを後半ではさらに加速させた北陸が2年連続決勝へ進出した。

瓊浦 26 (12 - 7, 14 - 17) 24 岩国工業

前半開始早々、瓊浦はエース池田のミドルシュートで先制する。岩国工も角田のカットイン、エース久保のミドルシュートと続き、互角の立ち上がりを見せる。その後、瓊浦が流れを掴む。池田を中心にフローター陣が鋭い1対1からのミドルシュートやカットインで得点する。岩国工は久保へのマークが厳しく、思うように得点できず、前半を12対7と瓊浦のリードで折り返す。

後半、瓊浦が主導権を譲らず18分まで23対14とリードを広げる。ここから岩国工の怒涛の反撃が始まる。池田に対してマンツーマンをつけ瓊浦のリズムを乱すと、攻撃ではエース久保が奮起し次々と得点をあげ、23分には23対20と3点差まで詰め寄る。その後、瓊浦は中嶋が加点し食い下がり、岩国工を寄せ付けない。最後まで追い上げた岩国工だが、GK新々江の好セーブに阻まれ、26対24でゲームセット、瓊浦が決勝進出を決めた。

▼決勝

北陸 35 (16 - 11, 19 - 21) 32 瓊浦

優勝経験のある両チームの決勝戦。前半、北陸が速攻から柴山がシュートを決め、先制する。瓊浦は萬屋のサイドシュートで得点し、10分で4対4と互角の立ち上がり。先に流れをつかんだのは北陸。5-1DFで瓊浦のスピードあるオフェンスに対して厳しくマークし、カットイン、ミドルシュートを簡単に許さない。速攻や杉山、村田のサイドシュート、大橋のポストシュート、平子のミドルシュートなどで得点を重ね、16対11と北陸が5点リードで前半を折り返す。

後半は激しい点の取り合いとなる。北陸は2人の左腕、柴山、杉本が活躍し、速攻やカットインなどで次々と加点し、15分

には29対21とこの試合最大となる8点のリードを奪う。対する瓊浦も藤永、池田、萬屋らが得点し、怒涛の反撃を見せるが、北陸GK佐藤が好セーブを連発、堅いDFで要所を守り、食い下がる瓊浦を振り切った。結局、35対32で北陸が3年ぶり3度目の優勝を飾った。

【女子】

▼準決勝

洛北 25 (13 - 7, 12 - 9) 16 高岡向陵

笠原のロングシュートで先取点を得た洛北は、堅い守りからスピードのある攻撃で着々と得点を重ねる。対する向陵も横嶋のポストシュートなどで得点、粘り強く洛北を追う。しかし開始15分以降、洛北が笠原ののびやかなロングシュートやポストシュートのコンビプレーで得点し6点差をつけ前半を折り返す。

後半は波に乗った洛北が、向陵を突き放しにかかる。笠原に加え田邊のロングシュート、櫻井の速攻やサイドシュートがテンポよく決まり、じわじわとリードを広げる。向陵も佐々木のロングシュート、カットインなどで得点、反撃のチャンスを狙うが、洛北のディフェンスを切り崩せず、洛北が快勝した。

四天王寺 19 (8 - 6, 11 - 8) 14 文大杉並

前半、四天王寺・堀川のカットインでスタートした準決勝。竹下の力強いポストプレーを中心に波に乗りたい四天王寺に、文大杉並は高い5-1ディフェンスとGK渡邊の好セーブで対抗し、均衡した試合展開のまま8対6で前半を折り返す。

後半、四天王寺が渡井のサイドシュートや前の速攻で2連取し徐々に主導権を握りはじめ6分に6点差になると文大杉並がタイムアウトを取る。流れを変えたい文大杉並は中村や足立のミドルシュートで得点するも、四天王寺の幅のあるディフェンスにリズムに乗れず、逆に速攻へとつなげられ、最終四天王寺のペースのまま試合が終了。

▼決勝

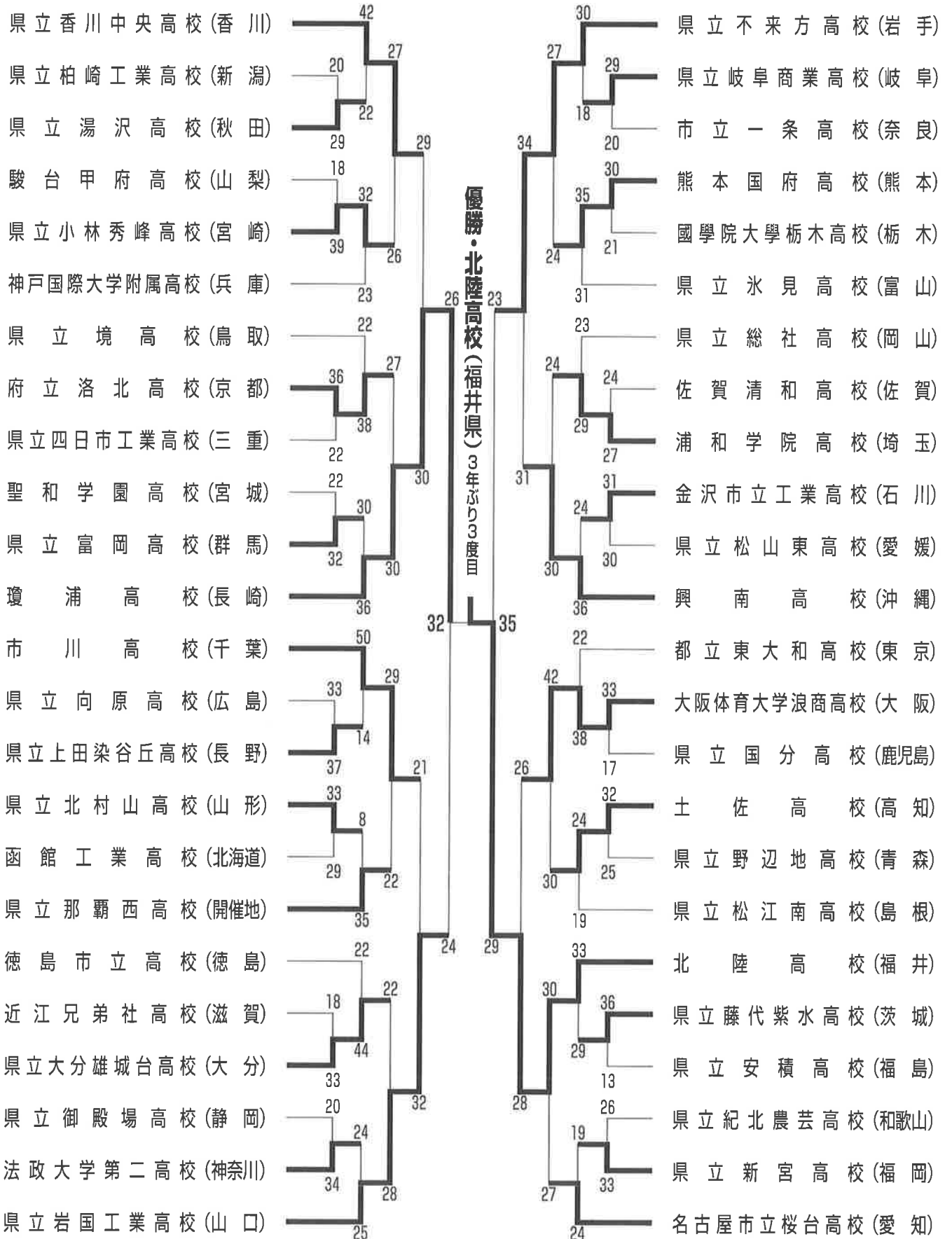
洛北 22 (12 - 6, 10 - 13) 19 四天王寺

王者奪還を狙う洛北対2年連続優勝を狙う四天王寺の決勝戦は四天王寺のスローオフで開始した。

笠原のミドルシュートで先制した洛北が、太刀川のカットインや角南のステップシュートなどで4連続得点し、徐々に主導権を握り始める。対する四天王寺もタイムアウトを取りリズムを取り戻そうとするが、7mTやミドルシュートを洛北のGK和田の好セーブに阻まれ、リズムに乗れないまま6点差で前半を折り返す。

後半早々、洛北が岸本のミドルシュートや太刀川の速攻で8点差にするが、四天王寺も竹下のポストシュートなどを皮切りに5連取と1点差まで詰め寄り手に汗握る展開に突入。しかし、最後に洛北が笠原のカットインやミドルシュートで加点し、追い上げる四天王寺を振り切り王者奪還を果たした。

男子の部



女子の部

